

人と鮎の知恵競べ　　＝ ＝ ＝　　三州横山話より

ヤハズ付近のピンコ釣



ここ（大淵）から川を四、五町降ったところに鮎滝と言う滝があって、それから一町川下に矢筈という滝があります。夏、この滝を飛び上がる鮎を捕るのに、古老の話によると、四、五〇年前までは、捕る術を知らなかったようですが、あまり鮎が飛ぶと言って、農事に使う箕で受けて捕ったのが最初といえます。私の記憶にある頃は、笠網という菅笠の形をした網に竹の柄をつけたもので捕りました。六月一日から滝番を決めて、一日四戸ずつ番に当たりました。雨上がりの水量の増した時は、四斗樽に幾杯捕れたなどと言って、夕方暗くなってから、岩の上で鮎の分け前を籤引きにしたりしました。それから鮎がだんだん網を嫌って、網を出すと、ぱったり飛ばなくなるなどと言うようになって、それまでの手製の太い糸の網を改めて、細い透明な糸で造った網を使うようにな

りましたが、それもわずかの間で、滝の下に真っ黒に押し合って、われがちに飛んでいた鮎が、網を出すと、ぱったり飛ばなくなると言いました。そんなふうで、滝番で行っているものが、網を岩の上に投げ出しては、じっと滝を見詰めては考えていましたが、鮎が滝に向かって飛び上がっても水勢がはげしいので、水が岸の岩へ当たって巻きかえっているところへ一度休んで、そこから泳ぎ上がるのを発見したものがあって、そこへ休みに来た鮎を待つて掬いとるようにしますと、そこまでは鮎も気がつかないと見えて、この方法で非常にたくさん捕れました。その水が巻き返るところを、ザワザワと言いましたが、対岸の出沢村には、このような天恵がないので、横山方を妬んで、種々な邪魔をしたものでした。しかしその方法も二、三年で鮎が覚えてしまって、その後はザワザワへ休まなくなってしまったので、もはや滝を利用する途も絶えて、近年は、滝の下へ集まっている鮎を、碇り針というので引っかけて捕るようになったと言います。

現在、私達がヤハズといっているのは、出沢側のピンコ釣の穴場です。ピンコ釣は、出水の時、鮎が遡上するのでよく釣れるのですが、水位が下がるにつれて、猿橋から上流に、順次、釣れる場所が移動していきます。その中でも「馬の背」と対岸の「ヤハズ」は最も釣果が多い処です。孝太郎がザワザワと言っているのは、馬の背岩の上流側のところだと思われます。今でも水がいい日にこの場所が取れば、クーラーに何杯も鮎を釣る人がいます。

滝番についての記述は、出沢区の鮎滝番のことと思われます。出沢区の鮎滝番は、正保三年（1646年）に、領主、設楽市左衛門貞信が瀧川家に「永代瀧本支配」のお墨付（すみつき）を与えたことにより始まり、大正15年（1926年）には、漁業組合との間で、笠網漁についての覚書を交わしています。

詳しくは、鮎滝のホームページを参照して下さい。

URL <http://www1.ocn.ne.jp/~ayutaki/>